

越境地域政策報告

信越県境地域づくり交流会について

内海 巖（上越市創造行政研究所）

1. はじめに

本格的な人口減少時代の中、各地方都市においては地域固有の特徴的な地域資源に着目し、シビック・プライドの醸成や地域ブランドの構築に取り組む必要性が高まっている。特に、県境や市町村界に近くへき地とされる地域においては、個性的な地域資源が存在する一方、人口減少が著しくその存続が危ぶまれる状況も少なくないことから、このことは急務の課題といえる。そのため、行政界を越えた近隣自治体同士が協力してこれらの地域資源を認知し、新たな交流・連携によってひと・もの・かね・情報の対流を起こし、地域の新たな価値創出を目指すことが重要と考えられる。

筆者らは、このような地域政策を推進するためには、その担い手となる人材を発掘し、地域づくりに関する学習、交流、連携・創発を支援する草の根型のプラットフォームが必要と考え、新潟・長野の県境をさむ広域エリア（以下、信越県境エリアという。）に着目した「信越県境地域づくり交流会」の開催等を2015年度から行ってきた。

2. 信越県境地域づくり交流会の特徴

（1）県境を越えた活動エリアの設定

本活動の対象地域とする「信越県境エリア」は公式の呼称ではなく、概ね新潟県（越後）の上越地方と魚沼地方、長野県（信濃）の北信地方、長野地方および大北地方の一部の範囲を指す（図1）。

この県境付近は、中部山岳国立公園、妙高戸隠連山国立公園、上信越高原国立公園などを擁する山間部を中心に構成され、国内トップクラスの豪雪地帯でもある。一級河川の姫川、関川、信濃川（千曲川）が県境を横断し、新潟県側の日本海に注いでいる。この自然環境に加え歴史・文化的な視点からみると、共通性や多様性の双方を実感できる魅力的な地域といえる。また、1982年開業の上越新幹線に加えて北陸新幹線が2015年に開業し、在来線を含めた交通環境が大きく変

化した地域でもあり、両新幹線沿線地域の交流・連携を意図したエリア設定でもある。



図1 信越県境エリアの構成市町村

（2）広域・異業種連携による推進体制

本活動は、広域観光組織である信越自然郷と雪国観光圏、自治体シンクタンクである上越市創造行政研究所の三者連携により推進している。

信越自然郷は一般社団法人信州いいやま観光局を事務局とし、飯山市を中心とした9市町村の観光地域づくりを実践する組織であり、雪国観光圏は旅館業など事業者主体の取組から発展した7市町村による観光圏（重点支援DMO）である。上越市創造行政研究所は上越市役所に設置された自治体シンクタンクである。このように、広域的なエリアの中で組織形態の異なる組織が連携することによって多様なスケールメリットを発揮させるべく取組を進めてきた。

（3）地域づくり人材に着目した活動内容

①学習・交流会の開催

広域・異業種連携の意義は、そのスケールメリットを活かし、各推進組織や各地域が有する多様な資源を共有するとともに、持続可能な地域づくりに向けて三者が抱える共通課題にアプローチすることにある。本活動において着目したのは、地域づくり人材の発掘・

交流である。

まず、2015年度から年1～3回のイベント開催を中心に活動を行ってきた。各回とも信越県境エリアに共通する地域課題や地域資源をテーマに取り上げ、地域づくりの実践者等によるトークセッションや情報交換会などを実施しており、これまでにのべ16テーマ、80人を超える登壇者による話題提供を行い、各回100人前後の参加者とともに学びと交流を深めてきたところである(表1)。

表1 信越県境地域づくり交流会の開催実績

年度	回	開催地	トークセッションのテーマ
2015	1	新潟県上越市	・地域資源 ・グリーンツーリズム ・ライフスタイル・観光組織経営
2016	2	長野県飯山市	・食文化 ・インバウンド
2017	3	新潟県十日町市	・老舗企業 ・鉄道
	4	新潟県上越市	・歴史文化 ・リノベーション
2018	5	長野県栄村	・ロングトレイル
	6	長野県飯山市	・スローフード
	7	新潟県上越市	・ミュージアム
2019	8	長野県山ノ内町	・ガストロノミーツーリズム
	9	新潟県十日町市	・雪国文化
	10	新潟県上越市	・ プラットフォーム (オンラインセッション)

備考) 第10回はコロナ禍の影響により中止



②オンラインセミナーの開催

2020・21年度は、ウィズコロナ・アフターコロナに対応したプログラムとして、オンラインを中心としたセミナーを開催した。当初の3回は、コロナ禍により中止とした第10回地域づくり交流会の代替イベントとして開催し、その後は当該地域ならではの様々な特徴・魅力をテーマに取り上げ、有識者等との対談を通じて知見を得る学習機会として「信越県境エリアの魅力を探るトークイベント」を開催した。

具体的には、自然環境や食、スキーをテーマに取り上げ、計14回開催、延べ700名弱の申込みと1,500回弱のオンライン視聴(1か月間限定)があった(表2)。

地元大学との連携による開催も行った。例えば第13

回の収録内容を大学の授業で活用したほか、第14回は大学の授業にゲスト講師を招き、その様子を収録してトークイベントとして配信した。

表2 信越県境エリアの魅力を探るトークイベントの開催実績

回	公開日	テーマ	ゲスト講師(敬称略)
1	1/21(木)	国立公園(妙高戸隠連山)	環境省戸隠自然保護官事務所 秋本 周
2	1/29(金)	国立公園(上信越高原)	環境省上信越高原国立公園管理事務所 岸 秀蔵
3	2/18(木)	発酵・長寿県長野	長野県食品工業協会事務局長 巖川 幸彦
4	3/1(月)	雪国・新潟の発酵食文化	里山十帖シェフ 桑木野 恵子
5	3/18(木)	地形・地質	信州大学名誉教授 赤羽 貞幸
6	7/20(火)	世界ジオパーク	フォッサマグナミュージアム館長 竹之内 耕
7	9/16(木)	スキー(地理)	筑波大学生環境系教授 呉羽 正昭
8	11/5(金)	スキー(歴史)	上越市教育委員会学芸員 荒川 将
9	11/19(金)	スキー(スポーツ)	新潟県スキー連盟常務理事 柳 一成
10	12/3(金)	スキー(経営)	(株)野沢温泉代表取締役 片桐 幹雄
11	12/17(金)	スローフード	神戸市経済観光局農水産課 山田 隆大 ハウスアンタントンシェフ 片桐 健策
12	1/14(金)	ブナ林	信州大学学術研究院教授 井田 秀行
13	1/28(金)	日本酒	八海醸造(株)代表取締役 南雲 二郎
14	2/28(月)	上越の魚介類	水産資源研究所新潟庁舎 吉川 茜 一印上越魚市場代表取締役社長 尾崎 徹



③地域資源情報のデータベース化

学習・交流会やセミナーの開催と並行し、2018・19年度には、当該地域ならではの特徴的な地域資源に関する情報収集を行い、学習素材としてのデータベースを作成した。2021年度には、この成果をもとにした地域資源情報のデータベース化の一環として、ホームページやパンフレットの作成等を行った。

ホームページには、様々な地域資源の中から20のテーマを選定し、それぞれの特徴の概要や成り立ち、魅力や課題などに関する情報、参考文献などを掲載した。また、このデータベースを広く周知するため、ホームページへの掲載内容のダイジェスト版としてパ

ンフレットを作成した（写真1）。

このデータベースは、地域資源に関する様々な調査結果をもとに、学校教育や社会教育、観光地域づくりや地域政策などでの活用を想定して編集したものである。また、調査主体は上越市創造行政研究所を中心としながらも、地域資源に関する様々な有識者の協力が不可欠であると考え、活用者側からの情報提供や調査への参画などを促し、地域全体の力で育て上げていくことを目指している。



写真1 地域資源情報ダイジェスト版
(パンフレットからの抜粋)

なお、2023年度は年間を通じた学習・交流プログラムを設計し、地域づくり人材の養成塾として開催予定である。具体的には、講師による複数回の勉強会と地域課題の解決策を検討するグループワーク、成果発表会などで構成し、オンラインと対面方式を併用したプログラムとする予定である。

3. おわりに

本事業のコンセプトは「まなぶ・つながる・はじまる」というキャッチフレーズに包含される。すなわち、地域づくりの良質な学びに資する情報を編集し、広域・異業種のネットワークによってその充実化と活用を促進することによって、地域づくり人材の発掘・成長を目的とした学習機会の提供とシビック・プライドの醸成、広域エリア内での信頼関係をはじめとするソーシャル・キャピタルの醸成、地域づくりに関するイノベーションと地域ブランドの醸成を目指すことにある（図2）。

本交流会は、広域連携に関するシンポジウムを端緒とし、その後の実績の積み重ねにより形成されてきた活動である。本活動専用の経営資源（専任スタッフや財源など）を定常的に有していないことから、取組の

安定感やダイナミックさに欠ける点は否めないが、必要に応じて活動内容を柔軟に検討することができ、マンネリ化を抑制できる点は強みの一つといえる。今後も、取組内容の進展や様々な内的・外的要因の変化等に基づき、取組の内容や対象範囲、役割分担・連携体制などを設定・実行し、評価・改善するマネジメントが継続的に必要と考えられる。



図2 本活動の基本構造

参考文献

- ・上越市創造行政研究所(2018)：信越県境地域づくり交流会開催報告書2015-2017.
- ・内海巖 (2019)：「信越県境地域づくり交流会」による越境地域プラットフォーム構築の試み、越境地域政策研究論集, pp.283-295.
- ・上越市創造行政研究所 (2020)：信越県境地域の地域資源情報2019資料編
- ・内海巖 (2020)：信越県境地域の地域づくりに向けたプラットフォームの再編成 - 「信越県境地域づくり交流会」の取組を通じて -、三遠南信地域連携研究センター紀要第6号, pp.30-31.
- ・内海巖 (2021)：コロナ禍における県境地域づくりの考察 - 「信越県境地域づくり交流会」の取組を通じて -、三遠南信地域連携研究センター紀要第7号, pp.116-118.
- ・内海巖 (2022)：越境による地域研究プラットフォームの意義と可能性 - 「信越県境地域づくり交流会2021」の取組を通じて -、三遠南信地域連携研究センター紀要第8号, pp.50-52.